

これだけは知っておきたい

インプラント上部構造製作のために必要な情報と知識

長期に安定した機能的、審美的なインプラント治療を行うには、歯科技工士が初期の段階から治療計画に参加し、全ての症例において、単純に歯冠外形を回復させるだけではなく、補綴ならびに外科的要件を満たしたインプラント埋入診断用ワックスアップを行う必要があります。

診断用ワックスアップを行う上で、模型以外の各種情報（臨床資料）が必要となりますが、実際は、歯科技工士は情報が少ない状態で作業を行う場合が多く、院内ラボであれば追加で情報を収集しやすいですが、コマーシャルラボではなかなか困難であると思われます。

また、そもそもどのような情報が必要なのか？歯科医師がインプラント埋入シミュレーションを行う上で、どのような項目を確認しているのか？などの専門的な知識を学ぶ機会も少ないと思われます。

本講演ではインプラント治療に必要な情報と知識を整理し、単独歯から全顎補綴装置製作、チェアサイドと連携した具体的なインプラント上部構造製作の実際や、マテリアル選択の考え方についてお話

させていただきます。

また、近年 Intraoral Scanner（以下 IOS）の進歩により、インプラント治療においても IOS を用いた診断用デジタルワックスアップから補綴装置の印象・製作まで行えるようになりました。IOS を用いたラボワークの利点や、現状における適応の限界などについても併せてお話しさせていただきます。明日からの臨床にお役立ていただけましたら幸いです。